

九州の現状と問題点

現状

経済	■ 日本の10%
場所	■ アジアに最も近い
特徴	■ 支店経済
少子高齢化	■ 日本平均より進む



放置すれば0成長

問題点

- ・ 支店、支社、工場のある日本の一地方。
- ・ 九州における意思決定は10%ない。
- ・ 東京が人、モノ、金、情報の中心。
- ・ アジアの成長を取り込んでいない。
- ・ 大企業がアジア本社を置く理由がない。
- ・ 九州の大企業はインフラ企業と地銀でアジアに展開する必然性がない。
- ・ 福銀と西日本シティが地銀にとどまっている。

事業会社のアジア統括会社福岡移転

福岡に東北アジアホールディングを置き日本企業の東北アジアのオペレーションを統括する。福岡アジア特区の中に東北アジアホールディングを置く場合、法人税を国税で5%、福岡県で2%、福岡市で3%、合計10%下げる。また東北アジアホールディングにもたれた会社の従業員が福岡に入る場合は、ビザを必ず出すものとする。集まってきた東北アジアホールディングに対し、九州・福岡は、人材、資金、アドバイス、リスク管理等を提供する。福岡でアジア事業の経営会議を行って終わったら中洲で一杯やる。

九州の発展ビジョン

目 標	■ 0成長の日本と、10%成長の中国の間でアジアの成長を取り込んで長期5%成長を目指す。
独 立	■ 東京からの意思決定の独立
道 州 制	■ 道州制の導入がなくても、九州全体で最適化する。
福 岡	■ 成長するアジアにおけるシンガポール、香港、上海等と並ぶ代表的都市をめざす。
九大ビジネススクール	■ アジアのトップビジネススクールとしてアジアの成長を担う幹部の人材育成を行う。
九州企業	■ アジアの成長する市場で一定の役割を担う



スーパーリージョナルとアジア金融市場

福岡銀行と西日本シティ銀行に、単なる預金と貸し出しを行う地銀ではなく、8%自己資本の国際銀行となってもら。リサーチを前提にアジア進出の選択肢についてアドバイスし、為替・金利リスク管理を支援するスーパーリージョナル銀行として駐在事務所を支店に変える。福岡で大企業がアジアの成長に関わる資金調達、資金運用を行うことを支援する、アジア市場リンクドファンドの上場、インフラファンド等、日本の投資家がアジアの成長を取り込めるような金融市場を作る。

今後のアプローチ

2011年度 2012年度 2013年度

福岡アジア特区

アジア統括会社の移転

福岡金融市場の充実

「西」から「アジア」へ

西日本シティ、西鉄
西部ガス、西日本新聞
コココーラウエスト 等

将来プラン

- ・ 九州のリーダー企業がこれまでの考え方を改め、アジアの成長を取り込みに行く。
- ・ 九州企業が、成長する大連・瀋陽、黄海沿岸等に進出する支援をする。
- ・ 福岡に人、モノ、カネ、情報、意思決定を集中させる。
- ・ 九大ビジネススクールはアジアの成長を担う幹部を育成・供給する。
- ・ アジア統括会社を顧客として、これにアドバイスする弁護士、会計士、税理士等を育成する。
- ・ 将来は、日本企業のアジア統括会社の福証上場も可能。
- ・ 九州の市町村が行っている水道等は広域化して効率化する。PPP、民営化も検討。



アジアの成長取り込み構想